

「こおりやまの米」通信

編集:郡山市

JA福島さくら郡山地区本部 (Tel. 921-0533)

NOSAI福島郡山田村支所 (Tel. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会(郡山市園芸畜産振興課 Tel.924-3761)



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

Vol. 2 育苗後半～田植え

* 過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。

こおりやまの米通信

検索

1 育苗管理 ～昼25℃、夜15℃を目安に管理しましょう～

苗が緑色を帯びるまで

苗に急に強い光を当てると白化苗となることがあります。緑色になるまでは強い光を避けましょう。

温度管理に留意し、高温による苗ヤケ、低温によるムレ苗を防ぎましょう。

1. 5葉期から

苗が緑色になったら、十分光に当てます。

温度は昼20℃、夜10～15℃を目安とし、徐々に自然環境に順応させます。

温度管理

ハウスやトンネル内の温度計は苗の高さに設置し、苗箱付近の温度を確認しましょう。

晴天時のハウス内温度は、朝は急に上がり、夜は急に下がります。ビニールの開閉は早めに行いましょう。また、ハウスやトンネル資材が新しい場合、高温になりやすいので注意が必要です。

かん水

1日1回、朝にたっぷりとかん水します。万が一乾いた場合には、昼頃に追加かん水します。夕方のかん水は、地温を下げ根張りを悪くするので、行わないようにしましょう。

プール育苗での注意点

通常の育苗と比べてかん水や温度管理が容易であり、根張りが良好となるため、プール育苗を導入する方が増えています。

以下の点に注意して取り組んでください。

○1葉期までは通常管理をします。水を入れる前はハウスが高温になりやすいので、温度管理に気をつけましょう。

○1～1.5葉になったら水を貯め、昼夜ともハウスサイドを開放します。プールへの貯水が早すぎると、湿害が生じる場合があります。

○ハウス内温度は低めに管理し、苗が伸びすぎないようにしましょう。

○苗が水没すると生育不良になるので、水深は培土が覆われる程度に保ちます。

2 本田準備

○濁水や稲わらの河川や湖沼への流入防止のため、「浅水代かき」をおこないましょう。

○ロータリー耕を続けると作土が浅くなりがちです。耕深は15cm以上を確保しましょう。

※作土が浅くなると・・・

・根域が狭く、根の生育が阻害される

・地温や水分の環境変化を受けやすくなる

・肥料が生育初期に吸収されてしまい栄養凋落となる

・稲わらなどが表層に鋤き込まれ、還元障害の原因となる

○ケイカルアップ、ベストソイルなどの土づくり資材を積極的に使用し、リン酸・ケイ酸・鉄・苦土を補給することで、倒伏しにくく食味の良い米づくりに取り組みましょう。

玄米600kgを生産するために、イネは約120kgのケイ酸を吸収します。ケイ酸の多くは灌漑水から供給されるため、ケイカルなら100kg/10a程度散布すると良いでしょう。

○畦畔をしっかり作って漏水を防止し、除草剤の効果を高めるとともに、低温時の深水管理に備えましょう。

漏水田対策としてトラクタの踏圧による床締め、及び畦畔部へのベントナイト施用が有効です。ベントナイトは水分を含むと膨らむ粘土鉱物で、漏水防止効果が高い資材です。漏水田では畦畔部に25kg/10m程度の割合で散布してから畦塗りを行いましょう。

3 たい肥を散布した場合の基肥の適正量

○牛ふんたい肥1t(窒素成分量11kg/t、有効化率20%)から供給される有効な窒素成分量は、およそ2.2kgです。

○鶏ふんたい肥100kg(窒素成分量2.8kg/t、有効化率60%)から供給される有効な窒素成分量は、およそ1.7kgです。

散布したたい肥の量に応じて供給される有効な窒素成分量を、化成肥料の施用量から減肥しましょう。

(例)牛ふんたい肥を1t/10a施用した場合

基肥一発コシヒカリ専用(窒素15%)の場合は、通常40kg/10aの施用ですが、25kg/10aに減肥しましょう。



春の農作業安全確認運動展開中！

～ノーミス ノー事故 農作業～

○トラクター乗車時にはシートベルト、ヘルメットを着用しましょう！

○万が一に備え、各種保険へ加入しておきましょう！

○家族で「声かけ(注意喚起)」しながら事故防止意識を持ちましょう！



「ばか苗病」が増加しています！

播種後に使用できる農薬はありません！

後に残せば残すほど処理に手間のかかる病気です。

育苗中に発生した場合は抜き取りを実施し本田に持ち込まないようにしましょう！



4 育苗中の病気

耕種的防除:①土のpHは5.0に調整しましょう。②塩水選を行い健全な種子を播種しましょう。
③厚播きを避けましょう。④温度管理を徹底しましょう。⑤かん水過多・過湿に注意しましょう。



【主な育苗中の病気】

	発生時期	病名・病原菌	症状	発生条件
細菌	1.5~2葉期	もみ枯細菌病	坪状に枯れあがり、心葉が容易に抜ける	高温多湿 高pH(6.0以上)
	育苗期	苗立枯細菌病	坪状に枯れあがり、基部が白化する	高温 苗の生育不順
苗立枯病	出芽~硬化期	リゾープス	白いカビ	高温多湿 窒素の多・厚まき
	緑化期	フザリウム	白~ピンクのカビ	低温過湿 高pH(5.0以上)
	硬化期	ピシウム	ドーナツ状に枯れる カビは見えない	低温過湿 高pH(5.5以上)
硬化期	トリコデルマ	白~青緑のカビ	高温多湿 低pH(4.0以下)	

【播種後に使用できる農薬】

病名 病原菌	ダコニール 1000*1	ダコレート 水和剤*1	タチガレエース M液剤*2
リゾープス	○	○	
フザリウム		○	○
ピシウム			○
トリコデルマ		○	

※1:播種時~緑化期(但し、播種14日後まで)

※2:播種時又は発芽後

・細菌病が発生した場合防除の方法はありません。周囲の箱に感染する前に速やかに処分しましょう。

【もみ枯細菌病】~育苗期間の高温により発生が助長されます~

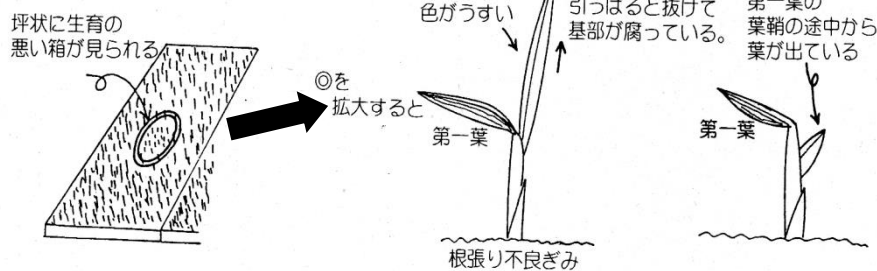
○症状:1.5~2葉期に急に症状が現れます。坪状に枯れ、第2葉を引っ張ると簡単に抜けます。新葉の付け根が白くなることも多くみられます。放置すると症状が広がっていきます。

○原因:病原菌は種子、空气中、器具等に存在します。通常温度では発病しませんが、催芽、出芽時の高温で繁殖し、感染します。

○防除:もみ枯細菌病を予防するための種もみ消毒をおこなっていない場合、播種後覆土前にカスミン粒剤を1箱当たり20g種籾の上から均一に散布する方法があります。もみ枯細菌病が発生してしまったら農薬では対処できません。

かん水を通して別の箱へ感染するので、発生箱は直ちに育苗ハウス外へ運び出し、廃棄してください。

・症状(1葉期を過ぎた頃)



5 箱施薬 ~いもち病・虫害対策~

○箱施薬剤によるいもち病と水田初期害虫の同時防除が省力的です。また、抵抗性害虫の発生を防止するため、3年程度を目安に使用する薬剤を変えましょう。

主な防除薬剤 (いずれも使用回数1回、1箱当たり50g使用)

~薬剤はラベル等を確認し、規定量を散布しましょう!~

①播種前床土混和または、播種時(覆土前)~移植当日に散布

【ルーチンパンチ箱粒剤】

②緑化期~移植当日に散布

【Dr.オリゼスタークル箱粒剤】

③移植3日前~移植当日に散布

【Dr.オリゼダントツ箱粒剤、デジタルコラトップアクタラ箱粒剤、

※デジタルメガフレア箱粒剤】

※カメムシ類に登録がありますが、本田殺虫剤(乳熟期)との体系処理が基本となっています。

6 田植え ~風のない暖かい日に実施し、植え付け本数は

1株当り3~4本程度にしましょう!~

○本数が多い→茎が細くなり、倒伏に弱く、穂も小さくなります。

また、根も酸素不足で細根となります。

○深植え→下位分げつが発生しにくく、生育が遅れ気味になります。苗が転ばない程度に浅く植えましょう。

○水管理→移植直後は稲が水没しない範囲の深水管理とします。移植直後の水稻は根の働きが弱っていますが、深水管理とすることで、過度な蒸散を抑える事ができます。また、強風から稲を守る効果も期待できます。

活着後(新しい根が3~4cmになった後)は速やかに3cm程度の浅水管理とし、分げつを促しましょう。

おいしいお米とは? No.2

お米の食味はタンパク質とアミロースの量で70%が決まるとも言われています。このうちタンパク質は、増加すると外観、味、粘りに悪影響を与え、食味を低下させてしまいます。アミロースの量は品種によるところが大きいですが、タンパク質含量は生産者が工夫次第でコントロール出来るため、おいしい米作りにおいては腕の見せ所となります。

お米のタンパク質は、その溶解性の違いによりグルテリン、プロラミン、アルブミン、グロブリンに分類されます。このうちプロラミンは炊飯しても崩れずに残るため、つやが無く、ボンボンとした食感の原因となってしまうのです。

タンパク質は人にとっては重要な栄養源であり、いかに含有量の多いお米を生産するか試行錯誤された時代もありました。しかし、食味低下の原因と明らかになってからは、タンパク質を低く抑えるための栽培方法が主流となっています。

種籾入手は正規のルートで!

品種育成者の許諾無しで水稻品種を作付すると、損害賠償などを求められることがあります。故意の場合は懲役や罰金、又はその両方が科されることもあります。

